

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷口中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	当該学年で学習する①漢字の読み書き②計算式③英単語の読み書き④理科・社会の重要語句等を習得させるために、自校のチャレンジカップ、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等のICTを活用した課題の意義・運用方法を学期ごとに再考し、意図的・計画的に提示する。生徒の家庭学習に併せて、各教科の授業内で基礎基本事項の助言や反復練習の時間を十分に確保し、達成感や成就感を向上させる。年度当初の各教科会にて、前述の指導事項の計画を立案する。
思考・判断・表現	令和6年度さいたま市学習状況調査「生活習慣に関する調査」における「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問において、令和5年度の自校の値を維持していく。そのために、課題に対する「評価の観点」を教師が明示し、「指導と評価の一体化」を実現する。「自力解決」と「協働解決」の学習時間を授業内で十分に確保できるよう、毎学期の教科会で「深い学びの実現」を図るための手だてを検討する。
主体的に学習に取り組む態度	令和6年度さいたま市学習状況調査「生活習慣に関する調査」における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的な回答をする生徒の割合を、全学年で令和5年度の自校の値を維持していく。そのために、家庭学習に「スタディサプリ」を意図的・計画的に活用していく。また、各教科の授業において導入や学習課題の設定を工夫・改善し、生徒の学習意欲の向上につなげていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	当該学年で学習する①漢字の読み書き②計算式③英単語の読み書き④理科・社会の重要語句等を習得させ、自校のチャレンジカップ(基礎基本に特化した一問一答テスト)5教科の平均点を75%以上にする。	⇒ チャレンジカップ成績優秀者の表彰・掲示を通じて達成感や成就感を向上させ、自主的な家庭学習のきっかけづくりを行う。生徒にとってわかりやすい授業のため、授業におけるICTを活用し、ポイントをしまった授業展開を行う。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査[国語][数学][英語]の「思考・判断・表現」に関する調査において、令和4年度の結果より自校の平均正答率を2pt以上向上させる。英語については全国平均を上回るようにする。	⇒ 生徒が課題に取り組み際、評価の観点を教師が明示し、つまづきに対して個に応じたアドバイスを行う。「深い学びの実現」を図り、「自力解決」と「協働解決」の学習時間を授業内で十分に確保する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査「生活習慣に関する調査」における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に「肯定的な回答」をする生徒の割合を、全学年で市平均よりも向上させる。	⇒ 各教科よりローテーションで「スタディサプリ」の課題を提示し、本校の課題である「基礎学力の定着」と「家庭学習の習慣化」を支援する。各教科担当が取組状況の点検と生徒への声掛けを実施する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	自校のチャレンジカップ成績優秀者の表彰・掲示を通じて、自主的な家庭学習のきっかけづくりを学校全体で継続的に行った。その結果、2学期末のチャレンジカップにて[国語][社会][理科]における平均点を全学年で75%以上とすることができた。また、ICTを活用した授業に学校全体で取り組み、わかりやすい授業の実現に努めた。	B
思考・判断・表現	生徒が課題に取り組み際、「自力解決」と「協働解決」の学習時間を授業内で十分に確保することに努めた。令和5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」に関する調査において、令和4年度の結果より[国語]が11pt[数学]が8pt向上できた。[英語]は全国平均1pt上回る結果となった。	A
主体的に学習に取り組む態度	自校のチャレンジカップにて課題を提示し、本校の課題である「基礎学力の定着」と「家庭学習の習慣化」の支援に努めた。令和5年度さいたま市学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的な回答をした割合は全学年で市平均を上回る結果となった。しかし、「スタディサプリ」等のICTを活用する機会が少ないため、改善していく必要がある。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国の平均正答率と自校の平均正答率を比較すると、[国語]+2pt、[数学・英語]+1pt上回っていた。しかし、[国語]の言葉の特徴や使い方にに関する事項については課題がみられるため、自校のチャレンジカップ(基礎基本に特化した一問一答テスト)の活用や、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等のICTを活用した課題を意図的・計画的に提示するなど、生徒が知識・技能をより獲得し得るよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国の平均正答率と自校の平均正答率を比較すると、[国語]+4pt、[数学]+3pt、[英語]+1pt上回っていた。また、令和4年度の自校の平均正答率と比較すると、[国語]と[数学]で大きく向上することができた。今後も「自力解決」と「協働解決」の時間確保に努め、向上を図ってきたい。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査の「[国語・数学・英語]の勉強が好きだ」の質問に「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が5割を超え、全国平均と同等の数値になっている。また、令和5年度と令和4年度の自校の無解答率を比較すると[国語]+1pt、[数学]+3pt向上し、問題に挑戦する意欲や姿勢が見られる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 (1月)	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	[国語][数学][社会][理科]の全てにおいて、さいたま市の平均正答率と比べると課題がある。特に[国語]の「話すこと・聞くこと」、[数学]の「データの活用」、[社会]の「歴史との会話」、[理科]の「地球に関する領域」ではより大きな課題がみられた。しかし、[国語]の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、[理科]の「粒子」においてはさいたま市の平均正答率を上回る結果となった。本校の課題である「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒はさいたま市の平均を上回り7割近い結果となった。今後さらに増加していくよう支援を行い、各教科の課題を向上させる必要がある。
中2	[国語][数学][社会][理科]の全てにおいて、さいたま市の平均正答率と比べると課題がある。特に[国語]の「我が国の言語文化に関する事項」、[数学]の「関数」、[社会]の「世界の様々な地域」、[理科]の「エネルギー」に関する領域ではより大きな課題がみられた。しかし、[社会]の「世界と日本の地域構成」、[理科]の「地球」においてはさいたま市の平均正答率を上回る結果となった。本校の課題である「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒はさいたま市の平均を上回っているが5割のため、まずはさいたま市の平均を上回るよう支援を行い、各教科の課題を向上させる必要がある。
中3	本校の課題である「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒はさいたま市の平均を上回り7割近い結果となった。二年生の時よりも+16pt上回る結果であり、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。また、本校の研究委嘱である[Well-Being]に関する質問事項「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」は約96%、「友達関係に満足していますか」は約99%の肯定的な回答であり、どちらもさいたま市の平均正答率を上回る非常に良い結果となった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし